

防犯住宅を考える

「アイルス」を使ったホームセキュリティ普及の取り組み

大阪ガスセキュリティサービス株式会社
営業計画部 営業計画チーム

桑村 隆史

1. はじめに

大阪ガスセキュリティサービスは、1984年より機械警備業務に取り組み、2003年にホームセキュリティ「アイルス」を発売しました。以来「アイルス」は、日常生活での、身近さ・使いやすさを追求し、近畿圏でシリーズ累計5.2万台（内定分を含む、2010年4月末現在の販売台数）という実績を上げています。



2. 「アイルス」の概要

宅内に設置した防犯用などのセンサーが作動すると、大阪ガスセキュリティサービスに信号を自動通報します。信号を受信した大阪ガスセキュリティサービスでは、必要に応じて警備員の派遣などを行います。このような、オンラインタイプのホームセキュリティに共通の機能のほか、NTT西日本のブロードバンドを通信回線とした場合には、次の機能をお使いいただけます。

①異常発生メール通知

大阪ガスセキュリティサービスが警備員を出動させた場合、お客様ご指定のメールアドレスに、その旨をお知らせするメールを送ります。帰宅途中のお客さまを想定すれば、鉢合わせ防止の効果が期待できます。また、センサーの反応に連動してメールを送ると、誤報の場合に混乱が生じますので、警備員の出動に合わせてメールを送信しています。

②警戒設定の遠隔操作

携帯電話^{(*)1}から、セット・リセット操作や警戒状態の確認が可能です。万一のセット忘れや、機械操作の苦手な方に代わっての操作に、威力を發揮します。

③外出・帰宅メール通知

セットおよびリセットの操作と連動して、メールを発信します。つまり、セットの場合には外出を、リセットの場合には帰宅を通知します。たとえば、共働きのご両親が、お子さまのご帰宅確認にご利用になると便利です。

④住宅設備^{(*)2} の遠隔操作（オプション）

携帯電話^{(*)1}から、おふろのお湯はり・ガス温水床暖房・エアコン・照明の遠隔操作（ON・OFF）ができます。

（*1）一部の携帯電話では対応できない場合があります。

（*2）メーカーおよび機種に制限があります。

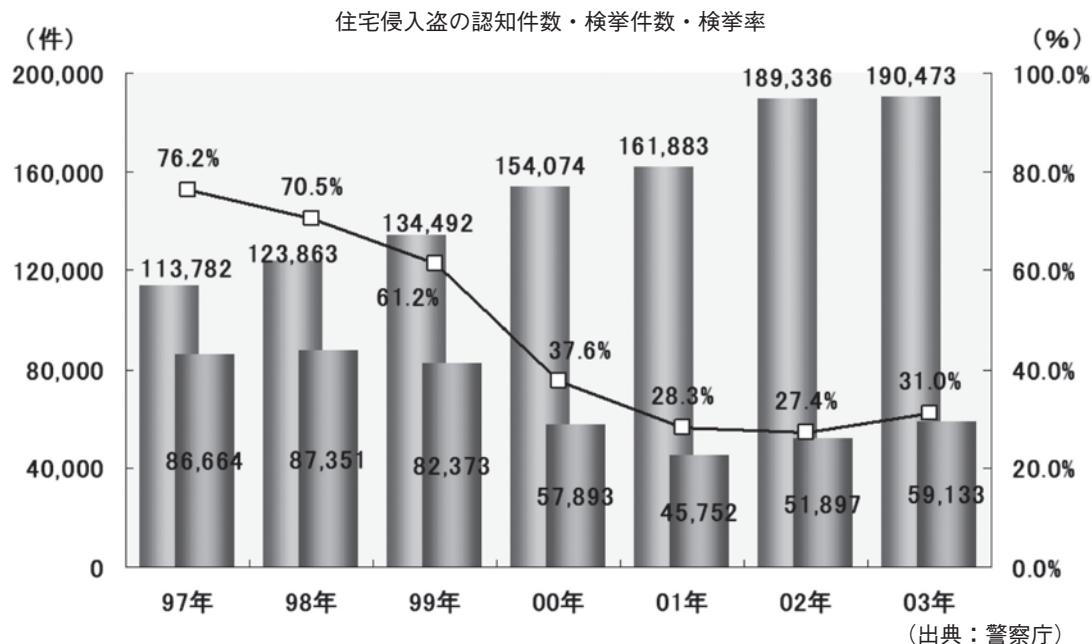
3. 「アイルス」発売の背景

「アイルス」を発売した2003年当時、住宅侵入盗は過去最悪で、認知件数19.1万件・検挙率31.0%（警察庁

データ・2003年実績)でした。

一方、携帯電話の普及率は94.4% (内閣府データ・2003年3月末・PHS含む)、インターネットの世帯普及率は81.4% (総務省データ・2003年3月末)で、各家庭でのIT活用が日常化していました。

以上のような状況にあって、「IT要素を入れた、日常の使用を実感できるホームセキュリティ」として開発したのが、「アイルス」です。ちなみに、「アイルス」という名前には、「IT技術を活用し愛情をもって留守宅を守る」意味が込められています。



4. 新築マンション向け商材での工夫

初代「アイルス」は、分譲マンションをメイン・ターゲットとした商品でした。発売(2003年)当時、「インターネット・マンション」と呼ばれる、全戸にインターネット用配線を施した物件が主流になっていたことが、この背景にありました。「アイルス」が必要とする、NTT西日本のブロードバンド回線を提案しやすい環境にあったわけです。

ところが、「アイルス」販売を続けていく中で、マンションディベロッパー様などのお客様から、あるご要望をいただくことが増えてきました。それは、「『アイルス』をインターホン設備に接続できないか」というものでした。

マンションの機械警備では、インターホン設備の果たす役割が大きく、ホームセキュリティを構築する場合も、各戸内のインターホンにセンサー類を接続して対応することが、従来からの主流です。

ところが、初代「アイルス」は、マグネットセンサーを配下に持っているものの、インターホン設備からは完全に独立した回路となっていました。つまり、「アイルス」が入っているマンションのホームセキュリティは、防犯を「アイルス」で、火災・ガス・非常をインターホン設備で構築していたのです。防犯・火災・ガス・非常をインターホン設備で構築しながら、アイルスの機能を利用したいということが、お



アイルスリーダーに、FeliCa対応の携帯電話をかざす女性

客さまのご要望だったわけです。

マンション用のインターホン設備は、アイホン(株)、パナソニック電工(株)の2社で市場を二分しています。「イルス」は、2006年にアイホン(株)と、2008年にパナソニック電工(株)と、各住戸のインターホン（住宅情報盤）親機で接続できるようになりました。

また、イルスリーダーという玄関の屋内側に設置するアイテムを追加し、FeliCa^{(*)1}方式を利用した、携帯電話や交通機関の乗車券をかざすだけで、警備のセット・リセット操作ができるようになりました。今まで馴染みのなかった方でも、簡単にホームセキュリティを使えると好評をいただいています。

(*)1 FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。また、FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。

5. 戸建向け商材での工夫①

戸建向けの「イルス」は、2004年に市場に投入しました。対応可能な通信回線は当初、電話回線とNTT西日本のブロードバンド回線でしたが、インターネットの世界では回線選択の多様化が進んでいたため、「イルス」も、NTT西日本以外のブロードバンド回線に対応することをかなり早い段階から求められました。このご要望は、お客様が大阪ガスセキュリティサービスとの警備契約を締結するかどうかに直結するものでしたので、各種調整を実施し、2006年にNTT西日本以外のブロードバンド回線にも対応できるようになりました。

なお、「2.『イルス』の概要」に記載した4つの機能を実現できるのは、NTT西日本のブロードバンド回線のみです。

6. 戸建向け商材での工夫②

戸建向け「イルス」の次なる課題は、コントローラーにありました。

2007年に競合他社が新型コントローラーを市場に投入して以降、住宅メーカー各社様より「新築住宅にマッチしたデザインおよび大きさ」のご要望をいただくようになりました。建物のデザイン性や小型化が進む他の住宅設備に馴染んでいける商品でなければ、ご採用いただきにくくなってきたのです。

2007年秋から開発検討に着手し、2009年7月に市場投入に漕ぎ着けました。施工方法も含め徹底的に小型化の検討を進め、容積比で従来品の35.7%を実現しました。また、デザインについても工業デザイナーの方の力を借り検討を重ねました。結果、住宅メーカー各社様より評価いただけるコントローラーが出来上りました。



新型コントローラー（左）と
旧型コントローラー（右）

サイズ (W×H×D、単位mm)
新型 … 195×195×30
旧型 … 210×262×58
(アンテナ部を含まず)

また、「4. 新築マンション向け商材での工夫」で触れました、アイルスリーダーにも対応できる仕様としました。

戸建の場合、コントローラーを設置するリビングが2階にあるなど、コントローラーの設置場所と玄関が離れているケースが多くあります。警備のセット操作から玄関を出るまでの余裕時間（タイムラグ）は、アイルスの場合、最大3分に設定することができますが、出掛けの玄関は何かと慌しいのに何か工夫できないかというお声を従来よりいただいていました。たとえば、お客さまからよく聞いたお困りのシーンは、「冬場のブーツ」「忘れ物」「小さなお子さまの準備」などでした。今回のアイルスリーダーの導入により、準備万端の状態になってから、玄関先のアイルスリーダーで警備のセット操作をしていただけるようになりました。急かされず、簡単にホームセキュリティが使える点は大いにアピールできる点となりました。

7. 最後に

まとめますと、大阪ガスセキュリティサービスは、次のような改良・開発を行ってきたわけです。

年	マンション向け	戸建向け
2003年	発売	
2004年		発売
2006年	・アイホン(株) 製インターホンとの接続が可能に ・アイルスリーダー導入	NTT西日本以外のブロードバンド回線に対応
2008年	パナソニック電工(株) 製インターホンとの接続が可能に	
2009年		・新型コントローラー発売 ・アイルスリーダー

これらは、お客さまの声に真摯に耳を傾けてきた結果であると自負しています。建築現場のスタンダードに合うようにする調整、一人でも多くの方にご利用いただけるための対応回線の拡大、ご利用者様に簡単・便利にお使いいただける工夫……。住宅の防犯性能の向上に直結する内容は皆無に見えるかもしれません。しかし、このように、「アイルス」をお客さまにより満足いただけるものにすることは、「アイルス」の普及・利用促進に寄与しているものと考えています。その結果、ホームセキュリティを装備した住宅が増え、防犯性能が向上していくわけです。

このことは、より安全な社会を確立することへ大阪ガスセキュリティサービスが貢献することでもあります。大阪ガスセキュリティサービスのスローガン「Safety & Good Life」は、そのような思いを形にしたものです。